

---

**おれはまだ本気をだしていないだけ～きっと第2、第3の封印があるっ！…はず。番外編？**

ソバット

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おれはまだ本気をだしていいだけ～きっと第2、第3の封印があるつ！…はず。番外編？

### 【ZPDF】

Z7897Z

### 【作者名】

ソバシト

### 【あらすじ】

おれはまだ本気をだしていいだけ～きっと第2、第3の封印があるつ！…はず。の番外編？です。

興味があつたら読んでください。

## はある約束。（前書き）

初心者の矛盾点、おかしな描写などはあたたかく田で見守ってください。

## とある約束。

ある日兄さんが消えた。約束したのに。  
わたしから離れないって。  
何処に行つたの兄さん。

「兄さん、迎えに来てくれたんですか」

「まあ暇だつたからな」

「言つてて悲しくなりません?  
今日は恋人達の聖夜クリスマスですよ。  
ヘタレの兄さんに恋人はいないでしょ? けど・・・  
せめて友達とくらい遊びに行きましょ?」

そんなこといわれても仕方がないわけだと兄さんは言葉を纏す。

「・・・あんな。  
別に友達がいない訳ではないんだぞ。  
ただみんな彼女とかバンドの練習とか忙しい訳で。  
く、くそあのリア充どもがつ!」

あれおかしいな涙が出てきたよ。兄さんが手で眼をこする。

「ああ、分かりました。兄さんがどうしようもないバカだと言つて」

とが。

あれおかしな涙が出てきたよ  
兄さんが手で眼をこする

「ああ、分かりました。兄さんがどうしようもないバカだと言うことか。」

心教をあせんよ

兄さんはすぐに調子にのるんですから。

一緒に町外れの公園を通ります。

兄さんは知らないで歩いているんでしょうけど。」クリスマスのデートスポットのひとつなんですよ、ライトアップがきれいだと有名な。

だから

「兄さんも端から見たらリア充ですよ。」

「なぜ?」

「データスポーツ」トドーくんにかわいい子と腕くんで歩いてたら当た

り前じゃないですか。」

兄さんはあたりを見渡して赤面する。  
かわいい、そう思つてしまつたわたしはわるくない。

そのまま話すことなく足を進めます。

公園の中央、大きな噴水の前にいたとき兄さんが大きなな古い革  
張りの本をわたしました、わたしに。

年季の入つたその本はわたしが欲しかつたものでした。

「少し早いけどクリスマスプレゼントだ。」

兄さんはすこし恥ずかしそうにほにかみました。

「ありがとうございます。で、今度は一体何処まで行つてきただん  
ですか。」

「うん、ちよつとイギリスまで」

ちよつとでコレを見つけられる兄さんはすこしと思します。

兄さんのモノ探しの才能はすこしと思します。

どうやって魔術師でもないのに貴重な魔導書とか手に入れて来るん  
でしょ? う?  
謎です。

「あ、後ね。これ」

銀細工の凝ったリングネックレスを渡してきました、これも案の定すごい魔力が籠もっています。

「お誕生日おめでとう、ふうつ。」

「ありがとうござります／＼。」

毎年クリスマスプレゼントと誕生日プレゼントは一緒にしていると言っていますの。」

「でも、兄さんこれペアリングですよ。」

「ふーん。」

「なにがふーんですか。一人でペアリングをつけるとかただのかわいそうな人じゃないですか。」

「ちょ！？、ふうう。なにを／＼。」

なにをつて、顔をすこし近づけただけではないですか。

兄さんはうぶですね。

リングの片割れはわたしの左手の薬指。もう一方は兄さんのむねもとに収まつました。

そしてわたしも兄さんのむねもとに收まりました。

兄さんは慌ててますが知りませんよ。

「兄さんはわたしからいなくなつたりしませんよね。」

「……うん、命が続く限りずっと。」

そこは死んでもずっと位はこつて欲しかつたです。  
こわいですが。

「はい、クリスマスプレゼントですよ。」

わたしが渡したのは革張りの手帳。  
もちろんただの手帳ではないですよ。  
兄さんがいつでもわたしのところに帰つてくるよう。  
変な虫が兄さんにつかないよう。魔術をたつぱりかけています。

「ありがとうございます、肌身はなさず持つとくよ。」

いつもわれるとひつひまじで頑張つて作つていった甲斐があります。

あ、そういうえば。

わたしはいつもプレゼントをもらつたのでした。

ふふ、おもしろいことと思いました。

兄さんに頭を近づけ、わたしと兄さんの距離はゼロになりました。

兄さん、そんなに顔を赤らめないでください。  
わたしまで恥かしくなるではないですか。

その場しのぎにわたしはその場を駆け抜けた。

兄さんわたしはあなたが好きですよ、家族として、異性として。

魔術の世界では近親相姦だつて合法なんですか。

わたしはいつでもバツチ二ーいなんですからね。  
兄さん、わたしの騎士さま。

.....なのは、アルカ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7897z/>

おれはまだ本気をだしていないだけ～きっと第2、第3の封印があるっ！...は

2011年12月25日13時48分発行